



図書館新聞

活動報告

おすすめ本

編集後記

vol.21

シンポジウム in 広島大学

2018年9月6日(木) - 7日(金)

広島大学で9月6日から7日にかけて開催された「第8回大学図書館学生協働交流シンポジウム」に参加しました。

1日目

- ・ 基調講演
- ・ 事例発表
- ・ ポスターセッション (報告活動)
- ・ 交流会

2日目

- ・ ワークショップ
「みんなで考えよう! - 活動の悩み・企画提案 - 」
- ・ まとめ
- ・ 中央図書館見学



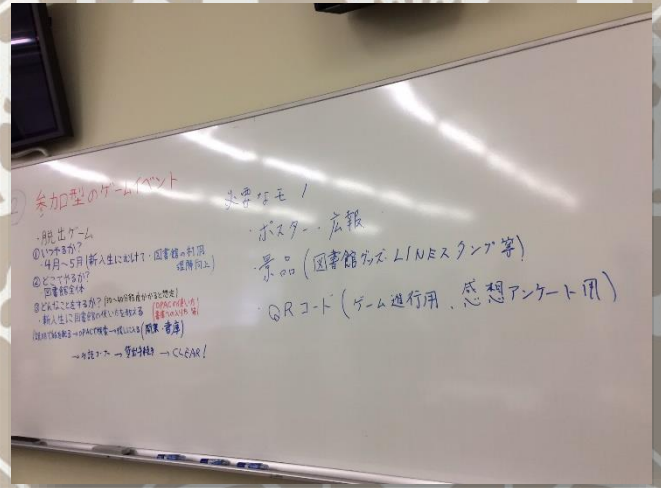
ポスターセッション (活動報告)

私たち学生図書委員が本学でどのような活動をしているのかを、ポスターセッションしました。大学だけでなく、図書館器具を取り扱っておられる企業様もブースを出展されていました。お菓子コーナー（ご当地のお菓子もありました）が設けられており、他大学の学生さんとのお話が弾みました。どの大学図書館もポスター1枚に分かりやすく内容がまとめられていました。特に印象に残ったのは広島工業大学さんのレトロゲームを彷彿させるようなビットを生かしたポスターです。デザインはさることながら活動内容をRPG風に面白味を持たせながら書かれていました。ポスター投票でみごと1位に輝いていました。本学学生図書委員会のポスターは残念ながら入賞することはできませんでしたが、多くの方にポスターをご覧いただけて嬉しかったです。また、図書館オリジナルキャラクター「らぶちゃん」を可愛いと言って下さる方が多くいらっしゃいました。来年はさらにポスターに磨きをかけ、入賞できるよう頑張りたいと思います。



ワークショップ

2つのテーマ「活動の悩み」「企画提案」から自分が考えたいものを選び、複数班に分かれて相談しました。私が属したのは「企画提案」班です。大学図書館をより多くの方により知ってもらえるよう、新入生向けの「脱出ゲーム」を考えました。図書館で脱出ゲームができるのかと思いましたが、集客力アップに繋がると考えましたので皆で企画を練りました。現段階で本学の図書館で実現できるかは分かりませんが、面白そうなので可能であればやってみたいと思います。最初は初対面の方とお話できるかなと不安がありましたが、和気藹々とした雰囲気楽しい時間を過ごせました。



ワークショップ発表会

ワークショップ後、各班がそれぞれ考えた案を発表しました。すでに本学図書委員会が取り組んでいるもの(裏ビブリオバトルや読書会など)もあれば、全く思いもつかなかったブックパーティや小説に登場する食べ物を実際に食べながらの読書会など、様々な案が出ました。今後の活動の参考になりました。



まとめ

充実した2日間でした。図書館についてより知識を深められたことはもちろん、委員会メンバーのなかでも深められたと感じています。2日目の集合時間を勘違いして遅れてしまった人もいましたが、なんとか間に合い最後まで取り組みました。私が今後の活動でやってみたいと思ったのは、図書館での就職活動・卒業論文講座です。就職活動講座は実際に私が就職活動をしてみて、もっと先輩方のお話を聞ける機会があれば良いと感じていたため、やってみたいと思いました。卒業論文講座はOG・OBの方に本学にお越しいただいて、当時のお話をしていただけると良いと考えています。実現するかは分かりませんが、私を含めて卒業論文で悩んでいる方は多いと思いますので開催したい気持ちが強いです。シンポジウムで学んだことを生かし、今後の活動をより良いものにしていけるよう頑張りたいです。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

図書委員おすすめ本

テーマ：ミステリー

『櫻子さんの足下には死体が埋まっている』

太田紫織 著 KADOKAWA

高校生の館脇正太とはあるきっかけで、お屋敷に住む骨好き標本土・九条櫻子と交流を持つようになります。その中で遭遇した死亡事件を「骨」と「死体」から推理し、解決していくお話です。アニメ・漫画・テレビドラマ化された作品なので、ご存知の方が多いのではないのでしょうか。シリーズを読み進めていくうちに事件の真相だけではなく、登場人物の背景も見えてくるところが本作の面白いところです。ぜひ読んでみて下さい。

2年 板持 乃野可



『クビシメロマンチスト人間失格・零崎人識』

西尾維新 講談社

鹿鳴館大学に通う「ぼく」こと一ちゃん（戯言遣い）はクラスメイトの葵井巫女子と知り合い、平和な日常を過ごしていた。しかし京都で連日引き起こされる猟奇的殺人の犯人、零崎人識との出会いが「ぼく」を、そして彼らを狂わせていき…？「お前は人殺しを容認できるのか？」最後の結末まで目を離せない、西尾維新屈指の後味の悪さを是非ともご堪能下さい！

2年 景山 真優



『ネバーランド』 恩田陸 著 集英社

伝統ある男子校の寮、「松籟館」では、4人の少年が冬休みの間寮に居残る事になった。彼だけが暮らす田舎の古い寮で自由に暮らし始める彼らだが、クリスマスイブの夜に行った「告白」ゲームをきっかけに、ある事件が起きる。休暇を過ごす中で膨らむ謎。そして、1日、1日と時間が進むにつれて、少年たちがそれぞれ抱える「秘密」が明らかになっていく。眩しい、でも確かにほろ苦い、孤立した少年たちの世界が描かれた青春ミステリ。貴方は、過ぎてしまった「あの頃」に憧れざるを得なくなるかもしれません。

1年 長谷川 章乃

『怒り』 吉田修一 著 中央公論新社

とある事件の指名手配書から犯人なのではないかと周囲の人々から疑われた縁もゆかりもない三人の男たち。千葉、東京、沖縄、それぞれの舞台上で繰り広げられる人間関係の揺れ動きが読者を作品内に取り込んでいきます。人を信じるとはどういうことを考えさせられました。また、最後まで誰が犯人なのかわからない緊迫感も見所となっています。渡辺謙主演の映画もあるので原作と合わせて見てみるのもいいかもしれません。

1年 仲田 桃子

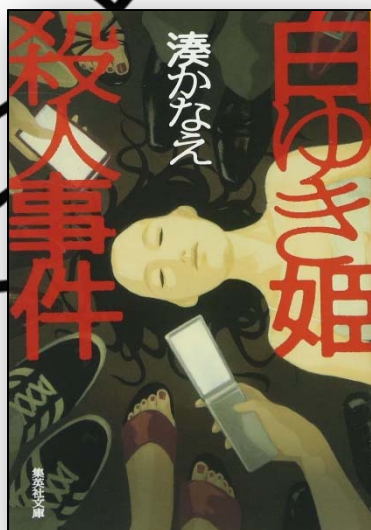


『白ゆき姫殺人事件』

湊かなえ 著 KADOKAWA

映像制作会社で働く赤星雄治は、友人の里沙子から彼女の働く会社で起こった殺人事件の話を聞き、ワイドショーのネタにしようとSNSで事件について呟く。殺されたのは三木典子という美人OL。里沙子の話を聞いた赤星は、三木と同じ会社で働く城野美姫を疑い始める。誰が嘘をついているのか最後まで分からない、現代ミステリー。

1年 松井 美倅



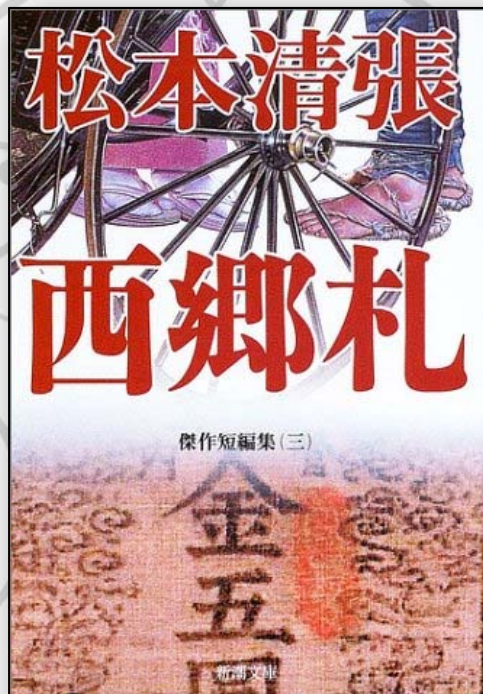
司書さん おすすめ本

テーマ：作家のデビュー作

『西郷札』 松本清張 著 新潮社

「西郷札」(さいごうさつ)とは、明治10年(1877)の西南戦争で、西郷隆盛が発行した紙幣で10銭・20銭・50銭・1圓・5圓・10圓の6種があります。この「西郷札」を巡って物語は、進んでいくのですが、主な登場人物となるのが、日向国佐土原生まれの士族・樋村雄吾と、その義妹の季乃。西南戦争により二人は、離れ離れになります。その後、思わぬ形で再会を果たしますが、再会した時には、季乃は、結婚していました。惹かれ合いながらも、お互い言葉にしない二人。しかし、季乃の夫である高級官吏の塚村圭太郎がそのことに気が付き、嫉妬に狂い、西郷札を使って雄吾を陥れることとなります。一体どのように陥れられ、どのような結末が待っているのでしょうか？この『西郷札』は、ストーリーもさることながら、その時代のことがよく分かります。なぜ西郷札という不換紙幣(正貨と引き換える保証のない紙幣)が発行されることになったのか、それが、どのように使われていたのか、そして、西郷札は、どうなったのか？そのような史実を知る上でとても面白い作品だと思います。

松江キャンパス図書館 司書 北井さん



ジム・ボタンの機関車大旅行

ミヒャエル・エンデ作
上田真而子訳



『ジム・ボタンの機関車大旅行』 ミヒャエル・エンデ 著

上田真而子 訳 岩波書店

4人しか住人のいない小さな島国「フクラム国」に、小包として届いた不思議な赤んぼう、ジム・ボタン。成長したジムは、親友のルーカスや機関車エマと一緒にフクラム国を出て、冒険の旅へ出かけます。旅の途中、さらわれてしまった「マンダラ国」のお姫様を助けるため、竜の町へ向かうジム。困難な道のりも、ルーカスやエマと力を合わせて乗り越えていきます。ジムもルーカスも、魔法が使えるなどの特別な力はありません。そんな二人が、知恵と勇気でピンチを切り抜けていく姿にワクワクします。きっと、ジムたちと一緒に、エマに乗って冒険したくなりますよ。もっとジムたちの冒険を楽しみたい人は、続編『ジム・ボタンと13人の海賊』もどうぞ。

おはなしレストランライブラリー 司書 内田さん

編集後記

図書館新聞の全体的な編集を担当させていただきました。諸連絡が上手くいかなかったこともあり、不安な気持ちで作成をスタートしましたが、無事発行できて良かったです。今年は13名の1年生が図書委員に入ってきてくれたので、昨年よりも1人多い5人で図書館新聞を作成しました。私が編集でこだわったところは前回と同じく背景です。いかがでしょうか。最後になりましたが、ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

2年 板持 乃野可

今回、表紙を担当しました。本読んでいたらいつの間にか夕方になってしまったって感じのイメージです。今年一番頑張った絵だと思います。演出上の都合で男の人が平積みの本の上に座っていますが皆さんはしないでくださいね！あと、おすすめ本の紹介ではテーマがミステリでしたがミステリは緊迫感があるし最後のネタバレらしとか面白いので読んでいて飽きないですよ。この図書館新聞が皆さんと本が会うのに少しでも役立てばうれしいです。

1年 仲田 桃子

ずっと好きだったシリーズものの中でも、特に好きな本のおすすめをすることができて嬉しいです。今後図書委員会で開催されるイベントもあるので程々に頑張っていこうと思います。いつも準備が遅くて本当に申し訳ないです…

2年 景山 真優

「おすすめ本」の紹介を担当させていただいたのですが、本の紹介ってどう書けば良いんじゃない～！？となり、最終的に友人に勧められた本に手が伸びました。勧められて、読んで、素敵すぎてウワー！となって、また皆さんに紹介して…。この流れて本を通してコミュニケーションしているみたいでめちゃくちゃ楽しいことなんじゃないかなあと感じました。記事の作成、とても楽しかったです。ありがとうございました！

1年 長谷川 章乃

図書館新聞作成に携わってみて、人に本の紹介をすることの難しさがわかりました。その本を読んだことのない人に興味を持ってもらうために、言葉で伝えるということは大変だと思いました。これからの活動で、上達していけるように取り組んでいきたいと思っています。

1年 松井 美倅

